

令和 8 年度 第 1 回
教育課程編成委員会

令和 8 年 9 月 3 日（木） 9：00～10：00

姫路ハーベスト医療福祉専門学校

令和 8 年度 姫路ハーベスト医療福祉専門学校

第 1 回 教育課程編成委員会 次第

日時：令和 8 年 9 月 3 日（木） 9:00～10:00

場所：姫路ハーベスト医療福祉専門学校

- 1 校長あいさつ
- 2 出席者紹介
- 3 学校説明（令和 8 年度教育課程・指導法の改善について）
- 4 本校への御意見及び御感想
- 5 実習先、進路先として、今後の本校教育に望まれること
- 6 閉会あいさつ

姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教育課程編成委員名簿

氏 名	所 属 ・ 職	任期
廣岡 徹	元兵庫教育大学大学院 教授（学校経営） (公財)兵庫県生きがい創造協会 理事・生涯学習アドバイザー	2025.4.1 ～2027.3.31
有吉 智一	一般社団法人 兵庫県理学療法士会 理事	2025.4.1 ～2027.3.31
下山 治男	ハーティ訪問看護ステーション 所長	2025.4.1 ～2027.3.31
三村 史典	姫路第一病院リハビリテーション部 部長	2025.4.1 ～2027.3.31
田中 洋三	はりま総合福祉評価センター 副理事長	2025.4.1 ～2027.3.31
松下 薫	障害者支援施設 三愛園 施設長	2025.4.1 ～2027.3.31
石田 由美子	社会福祉法人やながせ福祉会 幼保連携型認定こども園 やながせ保育園 園長	2025.4.1 ～2027.3.31
西川 一	たちえ幼稚園 理事	2025.4.1 ～2027.3.31
福田 忠浩	兵庫県薬剤師会 常務理事	2025.4.1 ～2027.3.31
岸田 憲治	ゴダイ株式会社 管理統括本部 人事部 部長	2025.4.1 ～2027.3.31
北浜 伸介	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 校長	2025.4.1 ～2027.3.31
小寺 正人	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教頭、介護福祉学科長	2025.4.1 ～2027.3.31
中村 智	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 理学療法学科長	2025.4.1 ～2027.3.31
森口 雅子	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 こども保育学科長	2025.4.1 ～2027.3.31
片山 芳信	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 くすり・化粧品総合学科長	2025.4.1 ～2027.3.31
藤田 啓介	姫路ハーベスト医療福祉専門学校 教務部長	2025.4.1 ～2027.3.31

令和 7 年度

第 2 回教育課程編成委員会の資料に基づき頂いたご意見ご感想

日時：令和 8 年 2 月 12 日（木）9:00～10:00

場所：姫路ハーベスト医療福祉専門学校

1 全体について

まず、今年度においても、各学科とも、前年度の成果と課題をふまえた取組について P D C A サイクルで推進されていることは高く評価したい。

専門学校においては、資格取得と専門分野における実践力の習得こそが重要である。

多くの専門学校で、学習意欲に欠ける一部の学生の指導に苦慮しているが、本学では、各学科ともに、学生に対して、授業以外に、基礎基本の習得のための様々な取組を行い、そのことによって授業の円滑な推進と資格取得への効果を高めるとともに、実習施設との連携のもと「実践的な学び」の高度化を図っていることは高く評価できる。また、実習機関の丁寧な指導と支援についても同様である。

カリキュラムの実施にあたって、それぞれの学年の入学者の学びの姿勢や考え方の把握に努め、指導方法を工夫するなどの教員の指導に敬意を表するとともに、真面目にその指導を受ける多くの生徒の努力が、全国平均を上回る資格取得に結びついていると評価できよう。資格取得においては、年々、高度化、難化の傾向にあるように思われる。「全国平均を上回る資格取得」という伝統が、今後も続くことを期待したい。

一方、補習や補充などの指導は評価できるが、教職員、学生ともども負担過多になることのないようお願いしたい。

また、教職員の資質の向上については、職員間の情報共有を図りながら、教員個々の自己研修等における取組への意欲や時間に偏りがないよう、引き続き研修体系の整備に努めていただきたい。

2 各学科における取組

(1) 理学療法学科

1 年次には基礎知識について、2 年次には検査項目について合格するまで口頭試問を実施するというステップが、学生に繰り返し取り組むことの重要さや意義を認識させているものと評価できる。

そういった一連の指導が、リハビリテーション評価機構の実地調査における評価に結びついたものと思われる。引き続き、システム化・一般化を進めていただきたい。

また、専門学校ならではの実践力の習得においては、実習施設との目標や指導内容についての共有は不可欠であり、「臨床実習指導者講習会」はそのための重要な研修機会ともなっている。引き続き、多くの実習指導者の参加が得られるよう尽力いただきたい。

(2) 介護福祉学科

新カリキュラムに移行し、実習回数が年5回から2回に減少するなどの影響があったが、内容・方法等を工夫したり履修時期を変更するなど、移行の趣旨を活かすべく努めている。この1年間の成果と課題を検証し、次年度以降の取組に活かしていただきたい。

また、外国人実習生に対して特別講座「日本語表現」を開講している。外国人実習生について日本語の習得は必須であり、学びと重ねて習得を図ることは重要である。同級生の日本人学生との交流機会も引き続き設定していただきたい。

ボランティア活動は、本来は自主的・主体的取組であるが、誰しも「きっかけ」が必要であり、その機会の設定と案内は必要であろう。学生のボランティア活動への促しとなればありがたいことである。

国家資格の取得について、昨年度チューター制度に続いて、今年度は日本人学生とは別に、留学生のみを対象とした試験対策講座を開講している。その効果を期待したい。

(3) こども保育学科

保育園・幼稚園の就職には、両方の取得もしくは小学校教員免許の取得が有利であることはいままでもない。また、学生の保育や教育の幅を広げるとともに、保・幼・小の連携にも大いに役立つ。にも関わらずニーズとの兼ね合いが難しいとのこと。今年度の検証を踏まえた次年度の取組に期待したい。

保育における理解について「実践」「知識」「発達の」「具体的」の4領域における評価は有効だと思われるが、学生の評価の傾向と教員の評価の間のギャップについての検証が必要であろう。引き続きデータの蓄積を図り、指導法の開発等に努めていただきたい。

また、学生の社会性の育成や実践力の習得において、実習先との連携が重要である。今年度、評価指標の設定について実習先との間で行われた擦り合わせの内容をもとに、より具体的な評価項目と評価指標についての評価シートの作成が待たれるところである。

教員の資質向上においては、自己課題に加えて三つの共通課題、①共感力、②表現力、③ICT力を設定している。①②は社会人、職業人としても必須の要素であり、③はまさに現代的課題にあたる。その調和の取れた資質向上に努めていただきたい。

(4) くすり・化粧品総合学科

若い世代のコミュニケーション能力の低下が言われて久しいが、とりわけ薬を販売するにあたって、客とのコミュニケーションが十分に機能しなければ、極端ではあるが、命にかかわる場合もあるとも言える。なかでも実習はまさにコミュニケーション力が試される場でもあり、学生一人ひとりの実習記録におけるコメントによる指導はその振り返りに有効と思われる。そのためには実習先との連携が不可欠であり、引き続き連携の充実を図っていただきたい。また、授業においても、グループワークやプレゼンなど重要なコミュニケーション能力の育成機会であり、教員のきめ細かい気付きと指導が求められよう。

学習習慣の身に付いていない学生に対して、要点プリントを作成し指導に当たっていることは重要で、学びの各段階毎の要点プリントを整理することで貴重な資格取得用のテキストも可能になるのではないか、その検証もお願いしたい。

理学療法学科

1 令和8年度 教育課程・指導法の改善について

(1)「カリキュラムの改変」

近年の臨床現場では、高齢化に伴い、脳血管障害に糖尿病や心疾患などを併存するマルチモビディティ患者が増加している。そのため、本校では従来の疾患別教育に加え、併存疾患を考慮した症例を授業に取り入れ、評価・リスク管理・治療方針を総合的に考える教育を推進している。これにより、複数の情報を統合し、対象者を全人的に捉える臨床推論能力の育成を目指す。これは、実際の臨床現場に即した実践的な理学療法教育の充実につながるものと考えている。今年度中に内容を吟味し、次年度のカリキュラムに導入する予定である。

(2)「トレーナーコースの充実化」に対する取り組み

2021年に開講したトレーナーコースの現在の取り組みとして、1年次の座学および1年次後半でのJATI認定資格制度試験受験、2年次の外部機関へのトレーナー活動実習を行っている。学内での取り組むについては、一定の成果が出ており、JATI認定試験の結果も毎年全国平均より高い結果となっている。外部機関へのトレーナー活動実習については、現状在籍教員が普段から行っているトレーナー活動に同行することが多かったが、姉妹校である姫路女学院高等学校の運動部活動を対象に、コンディショニングや傷害予防等のサポートを行う取り組みを進めている。これにより、高校生のスポーツ活動を支援するとともに、高校と本校との継続的な交流を促進し、高専連携の強化につなげていきたい。また、学生にとっても、実際の高校生を対象とした活動を通して、理学療法士・トレーナーとしての実践力やコミュニケーション能力を身につける機会になると考えている。

(3)「国家試験対策の充実」

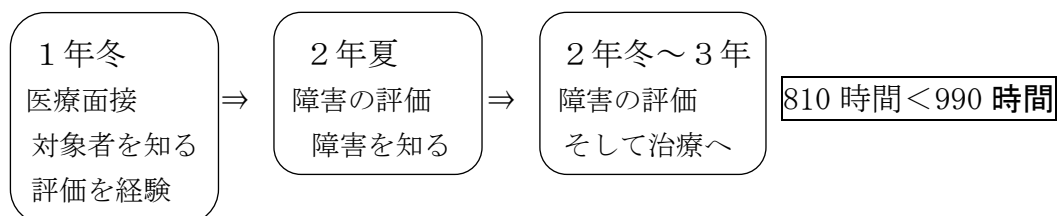
昨年度の国家試験合格率の低下を受けて、今年度から国家試験対策を強化している。特に最終学年においては、グループ学習が成立しないグループに在籍する学生の成績が不良であったことから、グループ学習実施の徹底と、早期から覚えるべき項目について課題を提示して合格するまでテストを実施する予定としている。成績不良の学生の特徴として、学習時間が圧倒的に短いことや、学業以外への関心が高いことから、学習課題量を調整し、学習に取り組まざるを得ない環境を設定している。また、クラスの雰囲気づくりを大切にし、皆が協力的であり明るく楽しい雰囲気の中で国家試験に向かって取り組むことができるよう随時声掛けを行っている。

2 理学療法学科の3年間 ※新カリキュラム

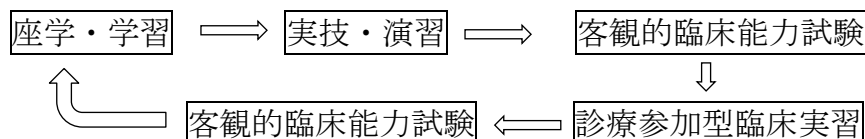
1年次	2年次	3年次
4月～ 前期授業 (週20コマ(1コマ90分))	4月～ 前期授業 (週20コマ(1コマ90分))	4・5月 学外実習(7週間) 就職活動開始
7月 前期試験	7月 前期試験	6・7月 学外実習(7週間)
9月～ 後期授業 (週20コマ(1コマ90分))	8月 学外実習(1週間)	8月 課題研究発表
12月 後期試験	9月～ 後期授業 (週20コマ(1コマ90分))	8～2月 国家試験対策
1月 学外実習(1週間)	1月 後期試験	12月1・2月 卒業試験
2月 追再試験(1週間)	2月 学外実習(4週間)	2月末 国家試験
	3月 国家試験対策開始	3月 卒業

3 理学療法学科の特色授業

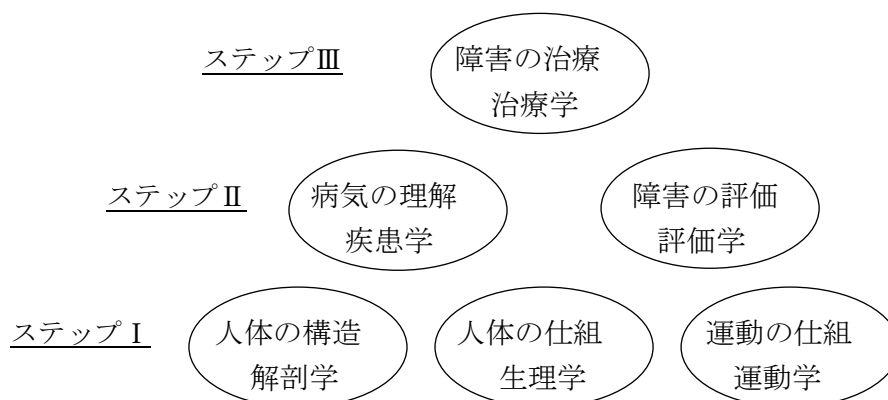
(1) 豊富な実習時間の確保 ⇒ 社会性と主体性を育成する



(2) 座学と実践の修得サイクル



(3) 臨床を意識したカリキュラム：自ら学び考える学習ステップ



ステップⅠ	体の仕組みや構造を学び、 <u>医療の基礎</u> を固める。
↓	
ステップⅡ	病気やケガの知識を習得し、障害が生じる仕組みを学び、その原因追求ができるよう <u>評価技術</u> を身につける。
↓	
ステップⅢ	障害の治療を行うまでの <u>思考過程</u> と <u>治療技術</u> を身につける。

資格

- ・理学療法士 ・専門士（称号）
- ・JATI（日本トレーニング指導者協会）認定トレーニング指導者資格

4 理学療法学科の進路

(1) 入学者と卒業者

【入学者の推移】夜間部を含む

令和5年度 → 令和6年度 → 令和7年度 → 令和7年度卒業
 85人 76人 68人 66人
 → 理学療法士合格
 48人/57人

【就職先 令和7年度実績】

尾崎病院、久保整形外科クリニック、石川病院、ときわ病院、姫路中央病院、茨木医誠会病院、栄宏会小野病院、柴田整形外科クリニック、Hito 病院、はくほう会加古川病院、中谷整形外科病院、やす整形外科クリニック、高岡病院、明石リハビリテーション病院、フェニックス加古川記念病院、みきやまりリハビリテーション病院、ツカザキ病院、私立稲美中央病院、児童発達支援放課後デイサービス GOOD、荻原記念病院、入江病院、吉田病院附属脳血管研究所、安富診療所、姫路第一病院、姫路聖マリア病院、野瀬病院、吉田アーデント病院、長久病院、厚生病院、神戸市立医療センター中央市民病院（レジデント）、横浜狩場脳神経外科病院、吹田特殊回病院、兵庫県職員、訪問看護ステーション虹色、大西脳神経外科病院、龍野中央病院、中山クリニック

(2) 退学・留年の理由

- ・進路選択（意欲低下）
- ・学業不振
- ・金銭的理由
- ・精神的不調

介護福祉学科

1 令和8年度 教育課程・指導法の改善について

(1) 多文化共生学習の推進

介護福祉士養成施設における外国人留学生の入学割合について、令和6年度入学生では全国で46.7%であったのに対して、令和7年度統計では全国55.3%が外国人留学生となり、留学生の割合が日本人学生を上回ってきた。本校においても本年度入学生は58.9%が留学生となり、国内統計を反映する形となっている。これらを背景に、本年度においては「日本語表現法」の特別科目について「読む、書く、聞く、話す」を系統だてた内容とし、「介護の専門用語」に特化した書き出しや、国家試験問題の言い回しに慣れるための学習を組み入れた。また、一日4コマの時間割編成を行うことで、学習習慣と知識・技術の定着を図る他、日本人と留学生においてピア・ラーニングの促進に繋がればと考える。これらは日本人学生の学力定着やコミュニケーション力向上にも繋がると考え、本年度は可能な限り、日本人学生と留学生との一体的な国家試験対策に繋がりたいと考える。一方で、留学生については学習面の他、生活のサポートをどこまで行うのか、教員のマンパワーを含めて検討が必要である。

(2) 新カリキュラムの検証

令和7年度入学生より介護福祉士養成カリキュラムの見直しを行い、2年間の介護実習を計6回から3回とし、1施設にける実習時間を増やすとともに地域密着型施設実習と高齢者・障害者支援施設実習を通じて、幅広い実践経験ができる内容に再編した。また、ブックトークや車いすシーティングを必修科目に組み入れ、科目の細分化や履修時期の見直しを行ってきた。本年度は新カリキュラムに移行して一巡する年度となるため、「新カリキュラム運営検討会」を設けて新カリキュラムの検証を行うとともにさらに洗練した授業内容へと進化させるためカリキュラム改定案を策定することとする。

(3) 国家資格取得を目指して

介護福祉士養成課程において、国家資格の取得は最優先目標の一つである。昨年度は留学生が受験する年度であったことから、全体の合格率は低下したものの全国介護福祉士養成施設の全国平均を6ポイント上回る成果をえた。N4相当の学生も多く在籍していたことを考慮すると、一定の教育効果はあったものとする。昨年度は日本人と留学生を分けて取り組んだが、本年度は国籍に関係なく一つのクラスとして学生同士の学び合いを推進していくこととし、一体的に国家試験対策を行う。既に昨年度以上の実力が確認できつつあるので期待したい。

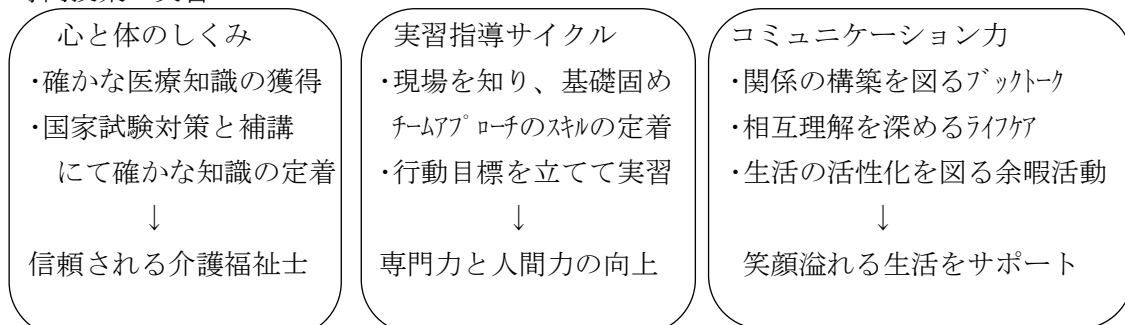
2 介護福祉学科の2年間

1年次	2年次
4月～ 入学 前期授業（週 20 コマ）※補習含む	4月～ 前期授業（週 20 コマ）※補習含む
7月～ 前期試験	7月～ 前期試験
8月～ 小規模多機能型実習（5日間）	8月～ 高齢者施設実習（35日間）
9月～ 後期授業（週 20 コマ）※補習含む	10月～ 後期授業（週 20 コマ）※補習含む 学力評価試験、就職活動
1月～ 後期試験 高齢者入所施設・障害者支援施設 実習（10日間）	1月 国家試験 2月 事例研究発表会 3月 卒業

3 介護福祉学科の特色授業

目指す介護福祉士像 個々の生命に寄り添い尊厳と自立を支える介護福祉士

(1) 専門授業・実習



- ・生活支援技術…基本的な生活力を身に着ける生活学
移動・食事・衣服着脱・入浴・排泄などの基礎的な介護の知識と技術等の習得
- ・医療的ケア…医療行為である経管栄養、喀痰吸引を座学 50 時間＋演習（30 コマ）実施
実技検定において、徹底的に実技を修得
- ・介護実習…特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等での 450 時間に及ぶ実習
- ・ライフケア…ハンド、フットのマッサージやサウンド・ヒヤリングノートケア等を習得
- ・車いすシーティング及びメンテナンス…利用者の生活を変える新しい知識
- ・補習授業の充実…個々の学生の「学びたい」と苦手克服に対する個別対応



- ・安心、安全、安楽、自立を目指す尊厳あるケア
- ・心に寄り添う介護の実践力
- ・癒しと安らぎを与え、心地よい毎日を提供

(2) 国家試験対策の充実

- ・ 1 年次：小テストや学内模試を実施し、個別学習計画にて基礎力の構築をサポート
- ・ 2 年次：週 4～5 コマの国試対策授業、全国模試及び個々の学生の習熟度に応じた校内模試を実施し、合格に向けてサポート

(3) 資格他

- ・ 介護福祉士国家資格取得 ・ 専門士（称号）
- ・ 介護ブックトーク修了書
- ・ ライフケアアドバイザー認定証
- ・ 医療的ケア基本研修修了書
- ・ 福祉住環境コーディネーター（希望者）

4 介護福祉学科の進路

(1) 入学者と卒業者

【入学者の推移】

令和 6 年度 1 年	→	令和 7 年度 卒業	→	国家試験合格者
40 名（留学生 18 名）		34 名（留学生 17 名）		22 名（留学生 7 名）

【就職先 令和 7 年度実績】

- ・ 特別養護老人ホーム
あへの里 (1)、あおやま (2)、うさぎ広畑 (1)、オンベリーコ (1)、
神戸垂水ちどり (1)、櫻ホーム西神 (1)、シスナブ御津 (1)、星陽 (1)、はぎの郷 (1)
まつかぜの郷 (3)、万亀園 (1)、美郷苑 (4)、やすらぎ園 (1)、ライフサポートひめじ (1)
- ・ 介護老人保健施設 老人ケアセンター緑ヶ丘 (2)
- ・ サ高住 グランドファミリア谷八木 (1)
- ・ 通所介護 CHIAKI ほおずき姫路津田 (1)、デイサービスセンターしらさぎ (1)
- ・ 訪問介護 トラスト介護グループ (4)
- ・ 障害者支援施設 愛心園 (1)、グループホーム咲楽 (1)
- ・ 有料老人ホーム メディカルホームグランダはりま姫路 (2)

(2) 退学の理由

- ・ 学業不振、不登校

こども保育学科

1 令和8年度 教育課程・指導法の改善について

(1) 学生の総合力を向上するための評価システムの構築

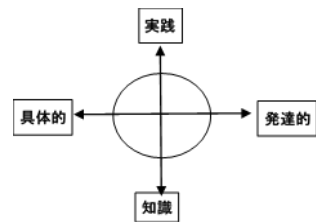
昨年に引続き、学生の知識・実践力／教員指導力の向上を目的とした評価システムを構築する。現在、仮説的に以下の3評価を検討している。ア. 学生自己評価：学生が過去-現在を自己評価し、未来(次段階)の自己目標を意識できる評価方法、イ. 教員自己評価：学生の実態を、教員自身の指導課題として意識できる評価方法、ウ. 実習評価：学生の実態を、実習先と本校が共有しつつ育成できる評価方法である。

ア 学生自己評価：過去 - 現在を自己評価し、未来(次段階)の自己目標を意識する評価

(ア)知識と繋がる実践力：保育内容、ピアノ、リトミック等の実践時に、各々の実践の意味を具体的に伝え、ねらいを理解して体現(活動等)できるよう指導する。

(イ)践力と繋がる知識：発達の／具体的知識について、実践例等と繋げて学び、体現(記録等)できるよう指導する。

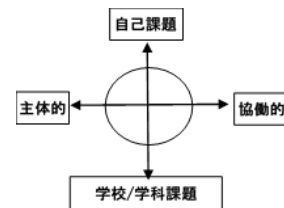
(ウ)評価：4領域について経過(伸び)を学生が自己評価したものと、教員が学生を評価したものを照らし合わせつつ再度指導にフィードバックしていく。



イ. 教員自己評価：学生実態を教員自身が指導課題(指導力強化)として意識する評価

現在の学生課題として、過去・現状を理解し未来(自己成長)を見通して自己変革するための、a)内的な力：成果/感情に気づく力、b)外的な力：身体/言語で表現する力の向上が挙げられる。教員間では情報、授業/指導内容の共有と、指導力強化を要す。

以上をふまえ、各教員が指導力向上にむけた自己課題を5つ挙げ、半期毎に自己評価し学生の総合力向上に繋げる。学科共通課題としては、昨年度に課題として示された「生活力の育成」を意識した①共感力(個々の背景/進度理解)②表現力(適確な伝達)③ICT力(ICT活用で内容充実)を挙げ、総合的な指導力向上を目指す(縦軸)。その際、教員個々の主体性と学科内外教員との協働も重視する(横軸)。また、学校実施の学生授業評価と照らし合わせ、教員自己課題にフィードバックする。



ウ. 実習評価：学生の実態を、実習先と共有しつつ育成するための評価

学生課題である「体験(実践)と理論が結びつき」、「個々の力の多様性に応じた」目標設定・支援を目指す、実習先と養成校の相互育成システムに向けて、今年度は、「本質的な力(マナー/態度等)の育成(昨年度要望多)」等をふまえた指標を仮説的に作成していく。また、実習前段階での学生の理解度/特性の共有については、今年度実習先との擦り合わせにおいて、仮説的に構築していく。将来的には、①実習指導内容(事前後含)、②学生の理解度/特性、③学生の自己目標等を共有できる内容を加えていく。

2 こども保育学科の2年間

1 年次	2 年次
4 月～ 入学式 前期授業（週 20 コマ(1 コマ 90 分)）	4 月～ 前期授業（週 20 コマ(1 コマ 90 分)）
5 月～ 保育体験	5 月～ 保育体験 就職活動
8 月 教養検定(初級) 保育実習Ⅰ-1 10 日間	8 月 教養検定(上級) 保育実習Ⅱ 10 日間
9 月～ 後期授業（週 20 コマ(1 コマ 90 分)）	9 月 幼稚園教育実習 20 日間(幼稚園コース)
12 月 保育実習Ⅰ-2(施設) 2 週間	10 月～ 後期授業（週 20 コマ(1 コマ 90 分)）
1 月 教養検定(中級) 進級検定(ピアノ, 実践)	1 月 卒業検定(ピアノ, 実践)
2 月～ ボランティア活動, 園見学, 就職活動	2 月 2 年間のまとめ, 実習先研修など
3 月 ボランティア活動, 園見学, 就職活動, 2 年準備	3 月 卒業式

3 こども保育学科の特色授業

(1) 実践的「保育教諭」育成カリキュラム((1)～(3)のスパイラルアップサイクル)

ア. 定期的に姉妹園・協力園で保育場面を見学し子どもと関わる保育体験演習により、実践で保育を体感する。各実習では、実践や授業で学んだ「子ども理解」「表現技術」を現場での自らの実践で試して学びを得る。

イ. 授業内での実践, 演習, 事例により、保育を自分のこととして捉え、子どもの立場、保育士の立場で自ら考える。加えて(1)についての振り返りワークから、子どもの行動の意味や保育の意味を知り、よりよい関わり、環境構成、教材準備、保育計画の力に繋げる。

ウ. 学校生活(日常)でグループワーク、教材制作、レポート、模擬保育等、多様な表現体験を重ね、自己・他者表現、子どもの表現を知るとともに、社会人として普遍的に必要な「教養」「コミュニケーション力」の伴う表現技術を身につける。

【実習・演習】*保育士の役割、子ども・保護者理解、知識・技術等を具体的に学ぶ

教育実習：幼稚園・こども園にて 20 日間の観察・部分・責任実習を行う(2 年次)

保育実習Ⅱ：保育園・こども園にて 10 日間の観察・部分・責任実習を行う(2 年次)

ボランティア・見学体験：様々な園の特色と自己適正を理解しつつ、就職を見据えて体験を重ね、自己向上を図る(1～2 年次)

保育実習Ⅰ 2：児童養護施設, 乳児院, 障害児施設等にて 10 日間の観察・体験実習を行う(1 年次)

保育実習Ⅰ 1：保育園・こども園にて 10 日間の観察・体験実習を行う(1 年次)

保育体験演習

(1～2 年次)

・「姉妹園演習」

(岡本ハーベストこども園
たちえ幼稚園)

・「校外演習」

(阿弥陀こども園等)

【子どもを理解する力】

*実践・演習を取り入れ、保育を「自分のこと」としてとらえる授業内容の充実
「保育原理」「教育原理」「保育内容総論」
「保育内容演習(健康, 人間関係, 環境, 言葉, 表現)」
「乳児保育」「保育・教育の心理学」等

【表現のための技術】

*学校生活(日常)で表し方を多様に学ぶ経験
(自己表現/学びの体現/表現受容等)
「音楽」「図画工作」「表現演習(ピアノ)」
「幼児体育」「リトミック」「保育実践演習」
「ストーリーテリング」「ホスピタリティ・デザイン学」等

(2) 特色科目

ア. 「リトミック」

音・リズムを身体で感じ、心身バランスのとれた子どもを育てる教育法を修得。

イ.「ストーリーテリング」

児の言葉を聴き、想像世界を共有する力、お話のイメージを伝える力を修得。

ウ.「自然保育」

“育てる・触れる”体験で、季節や自然、命に対する感性力・共有力を修得。

エ.「表現演習(ピアノ・声楽・童謡・わらべうた・てあそび)」

週4日以上ピアノを主とした演習により、音・リズムを使った実践力を修得。

(3) 資格

ア.保育士 イ.専門士(称号) ウ.幼稚園・保育園のためのリトミック1級指導資格

エ.教養検定(本校独自検定) オ.ピアノ検定(本校独自検定)

カ.幼稚園教諭免許(希望者*) キ.短期大学士(称号)(希望者*)

*近畿大学短大部(通信)との提携による

4 こども保育学科の進路

(1) 入学者と卒業生

【入学者の推移】

令和6年度1年 → 令和7年度卒業 → 専門士(称号)・保育士資格取得
35名 31名 31名
→ 幼稚園教諭免許状取得(希望者)
29名(100%)

【就職先 令和7年度実績】

ア.認定こども園・保育園 (アイウエオ順)

姫路市	青山保育園、あゆみ保育園、宇佐崎保育園、勝原保育園、 高浜コスモスこども園、Hihatov こどもえん、姫路中央保育園、 姫路前山保育園、ベアズガーデン、ベイカこども園、瑠璃こども園
相生市	公立こども園(パート)、魚橋託児所
明石市	明石あすのこども園、野の花こども園
加古川市	加古川エンゼル保育園、加古川ひまわり保育園、博愛産科婦人科
神戸市	岡本ハーベストこども園、たちえ幼稚園
高砂市	公立こども園(パート)
たつの市	揖保みどり保育園
西脇市	西脇こども園
神奈川県	みらいくほいくえん

イ.その他施設

姫路市	二葉園(児童養護施設)
-----	-------------

(2) 退学・休学の理由

進路変更・体調不良

くすり・化粧品総合学科

1 令和8年度 教育課程・指導法の改善について

(1) 登録販売者試験資格合格率向上に向けて

くすり・化粧品総合学科において、登録販売者試験は最も力を注いでいる資格であり、学生の合格率 100%を目標としている。一方、ここ数年は合格率の低下が続いており、試験の難化に加え、学生の学力や学習意欲、学習習慣の低下などが課題となっている。

今後は、過去3年分の問題を重点的に活用し、テキストや講義内容と照らし合わせながら知識の定着を図る。また、問題文を正確に読み取り、問われている内容を理解する力の育成にも取り組む。教員による説明だけでなく、問題の根拠を説明したり、学生同士で問題を出し合ったりするなど、アウトプットの機会を増やし、理解度を確認しながら学習を進める。さらに、早期から継続的に学習する習慣と資格取得への目標意識を身につけられるよう、学生が取り組みやすい学習方法を工夫する。また、実務実習については、現場での経験を通して得られる学びを大切にしながら、資格試験に向けた学習時間や知識の定着への影響も検証する。資格取得に必要な学習時間を確保しつつ、実務実習の時期や時間数、授業とのバランスを見直し、学習と実践の両立を図る。

(2) コミュニケーション能力の育成の強化

登録販売者は接客・相談対応を主とする職種であることから、コミュニケーション能力は必要不可欠である。近年、人と話すことに苦手意識を持つ学生も多く、学校生活や実務実習において、自ら報告・連絡・相談（報連相）することが十分にできない場面も見られる。そのため、学生が自ら考え発信・相談する力を身につけることを課題とする。

今後は、ホスピタリティデザイン学やハーベストタイム等を活用し、実際の場面を想定したケーススタディやロールプレイを取り入れるとともに、実務実習前後の振り返りや実習報告書を活用し、自身のコミュニケーションや報連相について振り返る機会を設ける。また、実習報告書をもとに学生同士で経験を共有する機会や、実務実習を経験した先輩との交流・情報共有の機会を設け、現場でのコミュニケーションや報連相について具体的に学ぶ。さらに、教員も日頃から問いかけや声かけを行い、学生が自ら発信・相談するきっかけをつくるとともに、肯定的なフィードバックを行うことで、相談しやすい環境づくりを進めていく。

(3) 学生の進路・ニーズの多様化に対応したカリキュラムの見直し

近年、学生の進路や学習ニーズが多様化しており、登録販売者資格だけでなく、化粧品分野や医療・調剤事務等を目指す学生もいる。そのため、すべての学生が共通して身につける知識・技能を基盤としながら、それぞれの進路や興味に応じて学習内容を選択できるカリキュラムについて検討する。

2 くすり・化粧品総合学科の2年間

1 年次	2 年次
4 月～ 前期授業開始	4 月～ 前期授業開始 登録販売者試験対策
7 月～ 実務実習開始（1 年間）	7 月 実務実習終了
9 月～ 後期授業開始 （午前中授業、午後実務実習）	7 月～ 登録販売者試験対策直前補習
11 月～ 就職説明会開始	8 月～ 登録販売者試験（各府県ごと）
1 月～ 模擬試験開始	9 月～ 後期授業開始（各種資格取得）
2 月～ 就職活動開始	12 月 O S C E（接客実技技能試験）
	3 月 卒業

3 くすり・化粧品総合学科の特色授業

(1) 学びながら働くデュアルシステム（午前中授業、午後はドラッグストアで実務実習）
提携先のドラッグストアで、より実践的に現場力を身につける。

(2) 登録販売者資格取得に向けて徹底指導

- ・日頃の小テスト並びに、きめ細かな補習にて弱点を克服
- ・登録販売者試験直前対策講座

(3) 各種資格

医薬品販売の分野で役立つさまざまな資格取得に向けての試験対策講座

- ・医薬品登録販売者資格
- ・日本化粧品検定試験 1 級・2 級（日本化粧品検定試験協会）
- ・調剤事務管理士・医療事務技能認定（技能認定振興協会）
- ・リテールマーケティング(販売士) 3 級（日本商工会議所）
- ・POP 広告クリエイター認定審査（公開経営指導協会）

(4) 即戦力養成

- ・薬品棚を使用して実際の医薬品販売訓練（「医薬品適性販売実習」）
- ・本校理学療法学科教員の指導で身体構造や機能の基礎知識を身につける。
- ・本校介護福祉学科教員の指導で介護の基礎知識を身につける。
（「健康と介護」）
- ・普通救命救急講習で緊急時の対応方法を身につける。

4 くすり・化粧品総合学科の進路

(1) 入学者と卒業者

【入学者の推移】

令和6年度1年 → 令和7年度卒業 → 登録販売者試験合格
17名 16名 11名/16名

【就職先 令和7年度実績】

(株)キリン堂(1) (株)スギ薬局(4) (株)サントラッグ(4)
(株)サグサグ(2) (株)LOOK(化粧品販売店)(1) ツカサキ記念病院(1)
飲食店(1)

(2) 退学の理由

・成績不振(進路変更) 1名